

前項で示した各種災害リスク分析を重ね合わせることで、複数の災害（地震を除く）が重複するエリアを抽出します。

①直江津区(中央部) [誘導重点区域・都市機能・居住誘導区域]
直江津駅西側において「洪水浸水」と「内水浸水」のリスクが重複しています。

②有田区(北西部) [居住誘導区域]
関川と戸野目川に挟まれた地区において「洪水浸水」、「内水浸水」、「津波浸水」のリスクが重複しています。

③高田区(北東部・南部) [都市機能・居住誘導区域内]
関川と青田川に挟まれた地区において「洪水浸水」と「内水浸水」のリスクが重複しています。
南高田駅北側の地区において「洪水浸水」と「内水浸水」のリスクが重複しています。

④新道区(南部) [居住誘導区域内]
県立中央病院北側の地区において「洪水浸水」と「内水浸水」のリスクが重複しています。

凡例
● 市役所
○ 出張所・総合事務所
□ 市町村境界
■ 地域自治体

8-5-4 マクロ分析のまとめ

マクロ分析を下表の通り整理します。

表 マクロ分析のまとめ

災害リスク		分 析
【個別】	①-1 洪水災害 (計画規模)	◆計画規模・想定最大規模ともに、関川沿いの居住誘導区域および都市機能誘導区域において、人口密度が高くかつ浸水深 0.5～3.0m 未満のエリアが存在する。
	①-2 洪水災害 (想定最大規模)	
	②土砂災害	◆誘導区域内において、直江津区の一部に土砂災害警戒区域の指定があるものの、人口密度の高いエリアでは土砂災害のリスクは存在しない。
	③津波災害	◆関川河口沿岸部において、人口密度が高くかつ津波浸水の想定されるエリアが存在する。直江津区の該当エリアは誘導重点区域に位置付けられている。
	④内水災害	◆鉄道駅周辺において内水浸水のリスクがあり、特に高田駅周辺では広いエリアとなっている。
	⑤ため池災害	◆誘導区域内において、一部ため池浸水想定区域が指定されているものの、人口密度の高いエリアではため池災害のリスクは存在しない。
	⑥なだれ災害	◆誘導区域内において、なだれ災害のリスクは存在しない。
	⑦地震災害	◆上越市地域防災計画における地震被害の想定に基づく条件設定で分析した結果、市域の広範囲で揺れによる建物被害が想定され、関川、儀明川、青田川沿い等で液状化による建物被害が想定される。
【重ね合わせ】 複数の「災害リスクが高いエリア」が重複するエリア		①直江津区【誘導重点区域、都市機能誘導区域・居住誘導区域内】 直江津駅西側において「洪水浸水」と「内水浸水」のリスクが重複 ②有田区【居住誘導区域内】 関川と戸野目川に挟まれた地区において「洪水浸水」、「内水浸水」、「津波浸水」のリスクが重複 ③高田区【都市機能誘導区域・居住誘導区域内】 関川と青田川に挟まれた地区において「洪水浸水」と「内水浸水」のリスクが重複 南高田駅北側の地区において「洪水浸水」と「内水浸水」のリスクが重複 ④新道区【居住誘導区域内】 県立中央病院北側の地区において「洪水浸水」と「内水浸水」のリスクが重複